

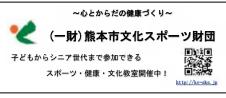








(漫画・園山垣丁さん)







コスギ不動産ホールディングス

熊本市人権啓発市民協議会令和5年度総会を開催いたします。

日 時:令和5年(2023年)5月31日(水) 15時00分~17時00分

場 所:熊本ホテルキャッスル (熊本市中央区城東町4-2)



お忙しいこととは存じますが、人権協会員の皆様はぜひご出席ください。

なお、案内状を各企業・団体の代表者様のお名前で郵送いた しますので、出欠の返信をお願いいたします。

総会後にトップセミナー(講演会)を開催いたします。 詳細につきましては、後日案内状と一緒に送付いたします。

会員情報内容の確認をお願いします。

熊本市人権啓発市民協議会では、会員の皆様へのご案内などをスムーズに行うため、住所や連絡先、代表者様のお名前、啓発担当者様のお名前等の情報を常に登録・更新しております。

異動等により登録情報の変更が発生した場合は、お手数ですが内容変更届のご提出をお願いいたします。(様式は熊本市人権啓発市民協議会事務局のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。)

提出方法については、メール・郵送・FAX可です。

※各会員様の人事異動等を考慮し、3月末に登録情報の確認を行います。総会で配布します会員名簿の資料となりますので、速やかなご返送にご協力いただきますようお願いいたします。



メガネの メガネ 補聴器 コネザコ コンタクト 福祉機器 本店 △096-383-5111 熊本市中央区水前寺 6-1-38 http://www.yonezawa-web.co.jp/



会員の皆様より、社会貢献活動や人権啓発への取り組みについてお話いただきます。

大海水産株式会社 豊増 悟 代表取締役社長 (令和4年度(2022年度)理事)



大海水産株式会社と申します。

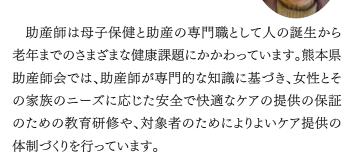
弊社は、熊本市西区田崎町に熊本地方卸売市場(通称:田崎市場)を創設した、水産物卸売会社です。「生鮮食品のおいしさを世界から地域へ」をスローガンとし、世界中から水産物を集めて熊本県内全域へと安定的に流通させる役割を70年以上に亘り担ってまいりました。

弊社から熊本県内に流通している水産物は全体の約50%以上となっており、熊本の台所を担う存在として成長を続けることができました。

水産物の安定供給をもって地域の皆様の食生活を支えるという社業は、SDGsとの親和性が大変高く、「熊本県SDGs登録事業者(第一期)」にも認定されています。弊社を支えてくださる地域の皆様への恩返しを続けるべく、「生鮮食品のおいしさを世界から地域へ」のスローガンのもと地域に根差した流通の形を守っていきます。

弊社のつづける社会貢献活動としましては、前述した社業を守ることはもちろん水産業界全体の活性化をめざした取り組みにも力を入れております。水産物サプライチェーン全体の業務効率化を見据えた情報流の高速化、または国や県が導入しているトレーサビリティ、資源管理システムへの取り組みを進めております。これらDXへの取り組みを「大海水産DX計画2023」において明確化し、今まさに変化を求められている水産業界全体に良い影響を与えていきたいというのが、私たちの考えです。コロナ禍において、まだまだ厳しい状況は続きますが、水産物流通の中枢的立場として一歩一歩進んでまいります。

一般社団法人熊本県助産師会 坂梨 京子 会長 (令和4年度(2022年度)理事)



お産は、病院、クリニック、助産所、自宅で、その方のニーズや健康状態によって選択することができます。助産所や自宅でのお産には医療機関と連携をしている助産師が立ち合います。女性とその家族が希望するお産ができるよう、助産師はお産をされる全ての女性に寄り添っています。熊本県内でも、自宅や助産院での出産を選択することもできるよう、助産師会ではお産を取り扱う助産院の安全対策を行っています。

子どもたちに性教育や命の大切さを伝える活動を行っています。熊本市教育委員会の委託を受ける小学校高学年への思春期教育、県内の小・中・高校での思春期教育を行っています。性に関する教育は、自分を大切にすること、相手を大切にすること、正しい人権の意識が基本となっています。将来すべての人々が、性と生殖に関する健康と権利、望むときに、望む出産ができるよう、正しい科学的知識を伝え、行動できるよう啓発活動を行っています。

産後の育児は、女性だけの問題ではありません。父親と 母親、地域で子どもたちを育てていく支援、産後ケア事業を 熊本県内で行っています。



ラブミンだよりについてご意見・ご感想等ございましたら、下記までご連絡ください。

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1-1

T861-4112 熊本市南区白藤2丁目2番100号





防災と人権「誰もが命と心を守れるまちに」

~安心にくらす備えとは~



防災・安心プランナー 柳原 志保

宮城県多賀城市出身。和水町在住。

東日本大震災で自宅が大規模半壊になり、2週間の避難所生活を送る。 2012年熊本へ移住後、防災士の資格を取得。「歌う防災士しほママ」 の名称で、講演やメディア出演、学校や企業での教育や企画など多方 面から防災啓発活動を行っている。

『防災』や『人権』と聞いてどんなイメージをもちますか?

3K(かたい・暗い・関係ない)のイメージ、ありませんか?

実は東日本大震災の時のわたしがそうでした。シングルマザーで、育児や仕事、家事をこなすことで精ー 杯。災害への備えも、まわりへの配慮も誰かがやるものと思っていました。

あれから12年。防災啓発活動をしながらたくさんの人に出逢いました。性別、年齢、国籍、仕事や経済力、 家族構成(子育て中、ひとり親、ケアが必要な家族がいる)など、様々な違いのある人たちが暮らしていて、そ の中には、障がいがある方、難病や疾患を持っている方、性的マイノリティの方など、いろんな立場の人がい ました。そして気づいたのです。「災害時はふだんの社会の課題が表面化されること」に。

わたしも東日本大震災の時、ひとり親家庭のため経済力を重視して仕事中心になり子どもと向き合う時間をとれず、結果的にわたしも子どもたちも心のケアが必要になってしまいました。「しょうがない」と頼ることをあきらめていました。このように災害時は、誰もが自分にも、まわりにも心にゆとりを持つことができなくなります。その結果、配慮がおろそかになり人権侵害が起きやすくなります。残念ながら熊本地震の時も同じことが起きていたと思います。

熊本地震から7年目になる今、改めて伝えたい事。ふだんからまわりとつながり『思いやりをもつこと』、そして『命を大切にすること』。誰もが「命と心」を守れるまちであってほしいです。ふくしとは「ふだんの、くらしの、しあわせ」。わたしたちは普段も、そして災害時も幸せを追求する権利があります。楽しい時間を持てる、困ったことを相談できる、支援が必要な人に手を差し伸べられる。そんな幸せな毎日の暮らしを重ねることも防災につながるのではないでしょうか?

安心にくらすために、これからは3G(柔軟・元気・自分事)で、備えを伝えていきたいです。